舞鶴市議会
産業建設委員会
活動報告

- 宮城県蔵王町における取組の調査
- 静岡県袋井市における取組の調査
- 静岡県伊豆市における取組の調査

産業建設委員会調査視察　実施日：令和6年5月15日～17日

視察の目的

本市においては、捕獲した有害鳥獣の処理に関する課題が生じていることから、解体施設を整備して一般廃棄物として処理している蔵王町と、食肉加工及び微生物による減容化に取り組んでいる伊豆市の事例を調査することとした。

また、台風やゲリラ豪雨などによる浸水被害を抑えるため、浸水対策事業に取り組んでいるが、事業の進捗等に課題が生じていることから、「流す・貯める・備える」という３つの対策に取り組んでいる袋井市の事例を調査することとした。

［産業建設委員会の令和６年の重点事項］

（1）　浸水・治水対策事業の推進等に関する調査・研究

（2）　有害鳥獣対策の推進に関する調査・研究

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。

視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和6年5月15日（水）	午後2時～4時30分	宮城県蔵王町	有害鳥獣の処理について
令和6年5月16日（木）	午後1時45分～3時15分	静岡県袋井市	治水対策事業について
令和6年5月17日（金）	午前9時30分～11時30分	静岡県伊豆市	有害鳥獣対策事業について

産業建設委員会調査視察　実施日：令和6年5月15日～17日

【宮城県蔵王町】調査事項：有害鳥獣の処理について

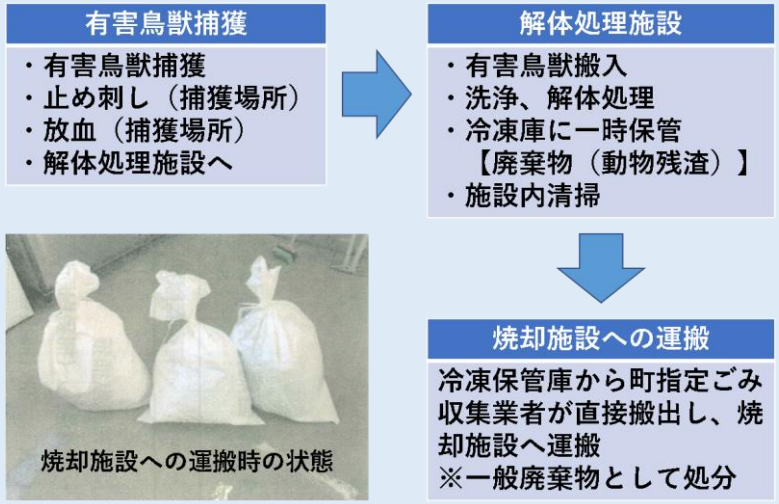
≪蔵王町の取組の概要≫

◇　有害鳥獣の解体処理施設については、設置場所、施設の形状及び管理方法など、地元住民との十分な対話を経て設置されていた。

◇　施設で解体し冷凍保管された個体は、一般廃棄物として収集され、他の可燃ごみと一緒にクリーンセンターで焼却処理されていた。

◇　捕獲実施者（猟友会員）の負担軽減のほか、処理施設の利用を通じて交流が生まれ、技術向上や連携強化といった効果も見られた。

有害鳥獣処理施設（解体場）の内部



有害鳥獣の捕獲から処分までのフローチャート

≪委員の所感≫

○　住民理解のもとで、労力も含めて低コストを心掛けて運営されている点などが参考になった。

○　解体処理施設の設置や一般廃棄物としての焼却処分を進めていく上では、住民理解を得ることが重点課題になると改めて感じた。

○　有害鳥獣対策実施隊員（猟友会員）の高齢化や埋設の負担などの課題が大きく改善されていると感じた。

○　他の可燃ごみとの混焼も選択肢の１つとして検討していくことで駆除された有害鳥獣の処分の課題解決につながると感じた。

産業建設委員会調査視察　実施日：令和6年5月15日～17日

【静岡県袋井市】調査事項：治水対策事業について

≪袋井市の取組の概要≫

◇　水害リスクを評価し、「重点排水区」と「一般排水区」に区分して、各排水区の課題に応じた対策が進められていた。

◇　「水を流す」「水を貯める」「水に備える」を対策の柱として、多層的に対策を実施することで、被害の軽減が図られていた。

◇　「水を貯める」対策として、公園や校庭への貯留や、地権者の作業負担を考慮した田んぼダムなどが着実に進められていた。

指標	評価項目	評価内容	評価点
影響を受ける可能性のある人命、財産等（暴露）（20点満点）	家屋数（10点満点）	人口を表すものとして、対象となる河川・排水路の流域内にある家屋数を評価	1位：10点 2位：9点 3位：8点 4位：7点 5位：6点 6位：5点 7位：4点 8位：3点 9位：2点 10位：1点 「－」：0点
	防災拠点数（10点満点）	対象となる河川・排水路の流域内にある指定避難所、指定緊急避難場所、医療施設、緊急輸送路数を評価	
影響の受けやすさ（脆弱性）（20点満点）	直近４年間の家屋浸水実績（10点満点）	袋井市中部豪雨災害対策アクションプランの短期メニュー完了後の過去４年間（H29～R２）における家屋浸水被害が発生した件数を評価	ただし評価数値が「－」の場合は０点とする。
	河川・排水路の未整備率（10点満点）	各排水区の全体計画延長に対する未整備河川・排水路の延長割合を評価	

水災害に対するリスクの評価

公園・校庭への貯留により下流河川の水位上昇を緩和

≪委員の所感≫

○　排水路などの整備方針とともに、自助・共助・公助も「袋井市かわプログラム」として分かりやすく広報されている点に感心した。

○　公園・校庭への貯留が特徴的で、補助金も活用しながら着実に整備を進め、成果も出ている点が参考になった。

○　田んぼダムの堰板の工夫により、水位調整の自動化が図られており、非常に有効であると感じた。

○　治水対策の「自分ごと化」を目指し、住民の水に備える意識や行動が醸成されていることが参考になった。

産業建設委員会調査視察　実施日：令和6年5月15日～17日

【静岡県伊豆市】調査事項：有害鳥獣対策事業について

≪伊豆市の取組の概要≫

◇　食肉加工センターを設置し、捕獲された個体を買い取ることで、狩猟者の負担軽減と捕獲意欲の増進につなげられていた。

◇　個体の搬入から食肉加工・保管まで各工程の技術水準を維持し、常に質の高い製品が生産されていた。

◇　食肉加工後の残渣や買い取りができない個体は、微生物により減容化され、処理費の低減が図られていた。

捕獲した有害鳥獣の搬入

熟成後の食肉加工

≪委員の所感≫

○　公設公営で安定的に稼働できることもあり、狩猟者の負担軽減と捕獲された個体の有効活用が図られ、非常に有効であると感じた。

○　捕獲された直後から個体検査、加工、熟成などを経て販売されるまでの管理が厳格かつ衛生的に行われており、参考になった。

○　食肉加工の行程は、非常にレベルが高く、皮なども商品化されている点や、ジビエのブランディングなども参考になった。

○　有害鳥獣対策の課題から、狩猟者の負担軽減と捕獲意欲の増進に加え、新たな特産品の創出につなげる市の本気度を感じた。